

教科名	保健体育	学 年	2	週時間数	3
使用教科書	中学校保健体育（学研）				
副教材等	中学体育実技（学研） 保健資料ノート（正新社）				

教科の目標		○運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けることができる。 ○運動についての自己課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ○運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をすることができる。		
授業の進め方		○毎時間準備運動をしながら、体力づくりと怪我の予防をしていきます。 ○各種目の基本的な動作や技術の練習をして、技能の向上を図り、記録を測りながら、自己の課題の達成度を測ります。 ○グループ活動を積極的に取り入れ、自分たちで課題発見・解決できるような環境をつくります。 ○準備や片付けなど互いに協力してできるようにします。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つきたい力	○各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について考えを理解している。 ○各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	○運動を豊かにするための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組みや目的に応じた組み合わせを工夫している。 ○自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	○運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもっている。 ○健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。
	方法	・定期テスト ・技能テスト ・習熟度テスト ・ワークシートの内容	・体操への取り組み ・技能テスト ・グループ活動での言動 ・ワークシートの内容	・授業への取り組み方 ・授業での準備・片付け ・グループ活動での参加 ・ワークシートの取り組み
学習のポイント	授業	○自己の課題解決に向けて、考えたり、それを実践したり表現していこう。 ○知識を技能に結びつけよう。	○自己の課題に向けて、積極的に取り組むとともに、グループや仲間に思いを発信していこう。	○準備や片付けなども含め、グループ活動には積極的に参加しよう。 ○健康・安全に留意し行動できるようにしよう。
	家庭	○日頃の健康管理に努めよう。 ○プリントの内容を理解し覚えよう。 ○図解体育や保健体育の本を読み、学習を深めよう。		
定期テスト範囲	1 学期中間(5 月下旬頃)			
	1 学期期末(6 月下旬頃)		ラジオ体操・集団行動・陸上競技・健康な生活と病気の予防	
	2 学期中間(9 月下旬頃)			
	2 学期期末(11 月下旬頃)		球技・器械運動・陸上競技・健康な生活と病気の予防	
	学 年 末(2 月下旬頃)		球技・武道・ダンス・傷害の防止・1 年間で学習した全範囲	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	体づくり運動 体育に関する知識	・ 自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体力を高めることができるようにする。 ・ 自己の生活の中での生かし方を理解する。	・ ラジオ体操第1 ・ 集団行動 ・ 体力を高める運動 ・ 体ほぐし・体力の意義 ・ 新体力テスト
	5	健康な生活と病気の予防	・ 自らの健康について考え、生活習慣病について理解を深める。飲酒・喫煙の害を理解し、それらの社会への悪影響を理解する。	・ 生活習慣病とその予防 ・ 喫煙と健康 ・ 飲酒と健康
	6	陸上競技Ⅰ	・ 仲間同士で協力しあい技能向上の楽しさや喜びを味わう。	・ 走種目（リレー） ・ （ハードル）
	7	器械運動Ⅰ	・ 自己の能力に適した技を選択し、個々の技ができるように技能を高める。	・ マット運動 ・ 跳び箱
2	9	器械運動Ⅰ	・ 自己の能力に適した技を選択し、個々の技ができるように技能を高める。	・ マット運動 ・ 跳び箱
		健康な生活と病気の予防	・ 薬物乱用の害を理解し、薬物乱用の社会への悪影響を理解する。	・ 薬物乱用と健康 ・ 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ
	10	球技Ⅰ	・ 自己の能力を把握し、個人的技能や集団的技能の高まりを図り、作戦を立てながらゲームを進めることができる。	・ サッカー ・ バスケ
	11	陸上競技Ⅱ	・ 自己の能力を把握し、個人的技能や自己の記録を伸ばす工夫ができる。	・ 長距離
3	12			
	1	武道	・ 技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、技の名称や行い方を理解する。	・ 剣道
	2	傷害の防止	・ 自然災害時の行動や応急手当の方法を実践できるようにする。	・ 自然災害に備えて
	3	球技Ⅱ ダンス	・ 自己の能力を把握し、個人的技能や集団的技能の高まりを図り、作戦を立てながらゲームを進めることができる。 ・ みんなで踊る楽しさや喜びを味わい、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をする。	・ ソフトボール ・ ダンス

教科名	技術	学 年	2	週時間数	1
使用教科書	「新しい技術・家庭 技術分野」(東京書籍)				
副教材等	「技術・家庭ノート 技術分野」(新学社)				

教科の目標		○実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだし課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度等を育成する。		
授業の進め方		○ワークやプリント中心に教科書なども活用しながら学習を進めます。学習形態は4人程度のグループで進めていきますので、わからないことや困ったことはまずはグループで相談し解決を目指しましょう。ただし作業の場面では安全面を考え、わからないことや自信がないことは先生に確認しましょう。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つきたい力	○生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
	方法	・知識については主に定期テストをもってその定着を確認し、評価します。技能については技能テストや作業の確認などを、主に授業中に行い評価します。	・プリントや定期テストで確認し、評価します。	・プリントや定期テストで確認し、評価します。
学習のポイント	授業	○学習に取り組む様子や学習内容の定着を確認するため、提出物などは期日を守り提出してください。	○学習に取り組む様子や学習内容の定着を確認するため、提出物などは期日を守り提出してください。	○学習に取り組む様子や学習内容の定着を確認するため、提出物などは期日を守り提出してください。
	家庭	○学習内容を実生活で生かし、より豊かな生活を創造しましょう。		
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬頃)			
	1学期期末(6月下旬頃)	「エネルギーの変換の技術」にかかわる内容から出題します。		
	2学期中間(9月下旬頃)			
	2学期期末(11月下旬頃)	「エネルギーの変換の技術」にかかわる内容から出題します。		
	学 年 末(2月下旬頃)	「情報の技術」にかかわる内容から出題します。		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	〈エネルギー変換の技術〉	〈エネルギー変換の技術〉 ・エネルギー変換にかかわる内容について、主に電気にかかわる内容の学習と製作を行います。	〈エネルギー変換の技術〉 ・エネルギー変換の技術を見つけよう ・発電について知ろう ・電気に関する技術を知ろう ・設計のしかたを知ろう ・問題を解決する工夫を考えよう ・実習の安全な進め方を知ろう ・設計に沿った製作をしよう
	5			
	6			
	7			
2	9	〈情報の技術〉	・エネルギー変換にかかわる内容について、主に機械にかかわる内容の学習をします。 ・身の回りにあるエネルギー変換の技術を利用した機械を、安全に利用するための知識や、保守・点検について学習をします。 〈情報の技術〉 ・情報通信ネットワークでの情報の利用について学習をします。 ・双方向性のあるコンテンツの設計を通して、問題を解決する方法や手順を考える。	・機械に関する技術を知ろう ・保守・点検の仕方を知ろう ・電気の安全な使い方を知ろう (情報の技術) ・双方向性のあるコンテンツの技術を知ろう ・双方向性のあるコンテンツの設計の仕方を知ろう ・設計を図で表す方法を知ろう
	10			
	11			
	12			
3	1		・使用目的や条件に合う作品を設計・製作する。 ・設計に沿って、安全で正確にプログラムの作成保存、動作確認、デバックができる。 ・1年間の学習をふり返り、次年度や実生活に生かす態度を養います。	・設計に沿った双方向性のあるコンテンツを製作しよう ・1年間の学習で学んだことをまとめよう
	2			
	3			

教科名	家庭	学 年	2	週時間数	1
使用教科書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 (東京書籍)				
副教材等					

教科 の 目 標	○家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解をし、それらに関わる技能を身につけることができる。 ○家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養うことができる。 ○自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協同し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につけることができる。			
	○より良い生活をしていくために、生活に必要な知識や技術を理解し、実際の生活の中で色々な課題を解決する方法を学びます。 ○実習は班で協力して進めます。その過程で工夫し、創造する能力や物を作る技術を習得します。レポートにまとめるので期日までの提出があります。 ○授業はワークシート（プリント）を使用します。家庭科ファイルチェックや宿題があります。自分で調べたりしながら完成させ、期限を守って提出しましょう。			
授業 の 進 め 方				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つ け たい 力	○家庭の基本的な機能及び家庭について理解している。 ○幼児、高齢者について理解し技能を身に付けている。 ○生活に必要な衣食住について理解し技能を身に付けている。	○生活課題について他の生活事象と関連付け、多角的に捉え、解決策を考えることができる。 ○実習や観察、調査、交流活動の結果等について、考察し、論理的に表現することができる。 ○他者の意見との相違点や共通点から、計画・実践について評価・改善することができる。	○地域の人々と関わり、協働しようとする態度を養っている。 ○生活を楽しみ、豊かさを味わい生活をよりよくしようとする態度を養っている。 ○日本の生活文化を継承しようとする態度を養っている。 ○将来の家庭生活や職業との関わりを考え学習に取り組むことができる。
	方 法	・定期テスト ・実習・課題の取り組み方 ・作品 ・ワークシートの内容	・定期テスト ・ワークシートの内容 ・実習・課題の取り組み方 ・作品	・定期テスト ・ワークシートの内容 ・実習・課題の取り組み方 ・作品
	学 習 の ポ イ ン ト	○普段から話をしっかり聴き、生活に必要な知識を覚え、技能を身に付けよう。	○生活課題について、調べ学習をしてわかったことや、学習した知識や技能を利用し、解決できるように考えていきましょう。	○どの分野にも意欲的に取り組もう。 ○仲間の考えを尊重しあい、学習に取り組もう。
	家 庭	○学習した内容を生活の中に取り入れよう。 ○実習の前は、手順などをしっかり確認してこよう。 ○生活に関するテレビの特集や新聞・雑誌を見よう。 ○レシピ集を積極的に取り組み、提出しよう。		
定期 テス ト範 囲	1 学期中間(5月下旬頃)			
	1 学期期末(6月下旬頃)	私たちの成長と家族		
	2 学期中間(9月下旬頃)			

	2学期期末(11月下旬頃)	私たちの食生活 調理と食文化
	学 年 末(2月下旬頃)	1年間で学習した全範囲

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	・ 幼児の生活と家族	・ 幼い頃を振り返ろう ・ 幼児の体の発達を知ろう ・ 幼児の心の発達を知ろう	・ 自分の誕生から幼児期について知ろう ・ 幼児の発達と個人差 ・ 運動機能 生理機能
	5		・ 幼児の生活習慣の身に着け方を知ろう ・ 幼児の生活の特徴を知ろう ・ 幼児の遊びと発達のかかわりを知ろう ・ 幼児の発達を支える大人の役割を考えよう	・ 情緒や社会性の発達言葉の発達 ・ 自立心 自律心
	6		・ 幼児とふれ合ってみよう ・ 子どもを育てる環境としての家族の役割を考えよう	・ 基本的生活習慣 社会的生生活習慣 ・ 幼児の生活の遊びの重要性 ・ 遊びで育つ力 ・ 遊びを豊かにするもの
	7	・ 持続可能な家庭・地域生活	・ 家族との関わり ・ 家族や地域の高齢者との関わり ・ 地域での協働を目指して	・ 幼児の遊び場所 ・ 保育実習 ・ 子どもが育つ場の広がり ・ 乳幼児のための社会施設 ・ 児童憲章 ・ 児童の権利に関する条約
2	9	・ 調理のための食品の選択と購入	・ 食品の選択と購入 ・ 加工食品	・ 生鮮食品・加工食品 ・ 食品の表示 ・ 食品添加物
	10		・ 食品の保存と食中毒の防止	・ 食品の保存 ・ 食中毒の防止 ・ 食の安全
	11	・ 調理と食文化	・ 日常食の調理	・ 食料自給率 ・ 食料資源
	12	・ 衣服の選択と手入れ	・ 衣服の役割 ・ 目的に合わせて自分らしく着よう ・ 衣服を計画的に活用できるようになる ・ 自分に合った衣服を手に入れよう ・ 衣服の手入れをしよう	・ 地域の食材を使った調理の計画と実習 ・ 衣服の働き ・ TP0 ・ 和服 ・ 既製服の表示 ・ 繊維の種類
3	1	・ 衣服の選択と手入れ	・ 衣服の手入れをしよう	・ 洗濯 ・ アイロン ・ ブラシ ・ 収納
	2	・ 私たちの住生活	・ 住まいの役割と安全な住まい方	・ 住まいの役割 ・ 住まいと気候風土
	3			・ 健康で快適な室内環境

教科名	英語	学 年	2	週時間数	4
使用教科書	「NEW HORIZON English Course 2」(東京書籍)				
副教材等	「JOYFUL WORKBOOK2」(正進社) 「語順トレーニング」(教育同人社)				

教科の目標		○はっきりと話されれば、日常的话题について、話の概要を聞き取ることができる。 ○日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章の概要をとらえることができる。 ○日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手の質問に答えたりすることができる。 ○日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。 ○日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書くことができる。		
授業の進め方		○授業はコミュニケーションの力を身につけるため、ペア・グループなど様々な授業形態・方法を取り入れ、つながりを大切にします。 ○ALT を交えた授業を定期的に行っていきます。英会話テスト(ISC)も行います。 ○正確な発音やリスニングの力を身につけるため、単語や英文のリピート学習に声を出して取り組みます。 ○家庭学習を促し、定着度合を確認するため、問題集やプリントを用いて復習や単語テストを行います。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つきたい力	○英語の特徴やきまりに関する事柄を理解している。(知識) ○「話すこと」、「書くこと」において、事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり伝えあったりする技能を身に付けている。(技能) ○「聞くこと」、「読むこと」において、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。(技能)	○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり伝えあったりしている。 ○「聞くこと」、「読むこと」において、場面や状況に応じて、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点などを捉えている。	○主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり伝えあったりしようとしている。 ○「聞くこと」、「読むこと」において、場面や状況に応じて、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点などを捉えようとしている。
	方法	○授業における学習態度 ○小テスト ○各種パフォーマンステスト ○定期テスト	○授業における学習態度 ○小テスト ○各種パフォーマンステスト ○定期テスト	○授業における学習態度 ○小テスト ○各種パフォーマンステスト ○提出物
	学習のポイント	○「話すこと」、「書くこと」、「聞くこと」、「読むこと」において、必要な単語や文法事項を覚えよう。	○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況を意識して、表現したり伝えあったりしている。 ○「聞くこと」、「読むこと」において、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点などを捉えよう。	○自ら進んで、英語を用いてコミュニケーションを図ろう。 ○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況を意識して、表現したり伝えあったりしている。 ○「聞くこと」、「読むこと」において、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点などを捉えよう。
	家庭	○自習ノートやプリントを使って、単語や基本文を声に出しながら課題に取り組もう。 ○小テストや定期テストに向けて、計画的に勉強に取り組もう。 ○映画や音楽など普段から英語に関心を持ち、英語に触れる機会を増やそう。		
定期テスト範囲	1 学期中間(5 月中旬頃)	Unit 0, Unit 1, Real Life English 1		
	1 学期期末(6 月中旬頃)	Unit 2, Real Life English 2,Unit 3, Real Life English 3, Stage Activity 1, Let's Read 1		
	2 学期中間(9 月中旬頃)	Unit 4, Real Life English 4, Unit 5, Real Life English 5		
	2 学期期末(11 月中旬頃)	Unit 6, Real Life English 6, Stage Activity 2, Let's Read 2		

		学 年 末 (2月下旬頃)	Unit 7, Real Life English 7, Stage Activity 3, 2年生で学習した内容すべて	
学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	Unit 0	・これまでに学んだことを用いて、自分が経験したことを話すことができる。	・動詞の過去形 ・過去進行形 ・There is [are] ….
	5	Unit 1	・休暇や週末の予定について、たずねたり伝えたりすることができる。	・be going to ・助動詞 will
		Real Life English 1	・場面に応じて、苦情を言ったり、それに対して謝ったりすることができる。	・SV00 ・SV0C (C=名詞)
		Grammar for Communication 1	・5つの文構造の復習。	・5つの文構造
	6	Unit 2	・機内放送を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。	・be going to, 助動詞 will
		Real Life English 2	・好きな食べ物やその理由について、紹介文を書くことができる。	・接続詞 when, if, that, because ・May I …? Could you …?
	7	Grammar for Communication 2	・場面や相手に応じて、ていねいに許可を求めたり、依頼したりすることができる。	・接続詞 ・接続詞 when, because
2	6	Unit 3	・接続詞を用いた文の復習。	・不定詞 (目的・原因を表す副詞的用法) (名詞的・副詞的・形容詞的用法)
		Real Life English 3	・インタビューを聞き、質問の内容や答えを聞き取ることができる。	・It is …+to ・不定詞
		Grammar for Communication 3 Stage Activity 1	・自分が体験したことや学んだことなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。	
	7	Let's Read 1	・留守番電話のメッセージを聞いて内容を理解し、相手に返信メールを書くことができる。	
			・不定詞を用いた文の復習。	
			・好きなことや得意なことについて話し合い、自分に合うと思う仕事について書くことができる。	
			・時計についての歴史を読み取ったり、説明したりすることができる。	
3	9	Unit 4	・天気予報を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。	・助動詞 will
		Real Life English 4	・習慣やマナーについて、たずねたり伝えたりすることができる。	・have to, do not have to ・助動詞 must, must not ・動名詞 (目的語・主語) ・助動詞
		Grammar for Communication 4	・手紙で感謝の気持ちを伝えることができる。	
	10	Unit 5	・助動詞を用いた文の復習。	
		Real Life English 5	・運行情報を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。	・疑問詞+to ・主語+動詞+ (人) +疑問詞+to ・主語+be 動詞+形容詞+that
		Unit 6	・身近なものについて、使い方ややり方を説明したり、自分の考えを述べたりすることができる。	・Could you tell me how to get to …? — Take …. ・疑問詞+to
	11	Real Life English 6	・乗り物での行き方をたずねたり、答えたりすることができる。	・比較表現 (…er, the …est) (more …, the most …) (better, best) (as … as ~)
Grammar for Communication 5 Stage Activity 2		・留守番電話を聞き、主な内容を理解することができる。	・比較表現 ・Shall I …? ・比較表現	
3	12	Real Life English 6	・身近なことについて、特徴を比較しながら説明することができる。	
		Let's Read 2	・自分の好みや要望を伝えながら買い物をするすることができる。	
			・比較表現を用いた文の復習。	
	1	Unit 7	・クラスで人気のあるものを調べて、その結果を発表することができる。	
		Real Life English 7	・場面や登場人物の心情の変化を読み取ったり、気持ちをこめて音読したりすることができる。	
		Grammar for Communication 6	・商品のコマーシャルを聞き、商品の特長を聞き取ることができる。	・比較表現
	2	Stage Activity 3	・各地の世界遺産を紹介することができる。	・受け身 (平叙文) (疑問文) (by … つき) (助動詞つき)
Let's Read 3		・自分の好みや要望を伝えながら電話で用件を伝えることができる。	・Do you want to …? —I' d like to, but I can' t.	
		・受け身の文の復習。	・受け身	
3	3	Let's Read 3	・店内のアナウンスを聞き、イベントなどの情報を聞き取ることができる。	
			・自分の町のおすすめの場所について書き、相手にその場所の特徴やよい点を伝えることができる。	
			・時系列を整理しながら内容を理解することができる。	